

埼玉50山リスト

この50山はいわゆる「名山」という訳ではなく、色々なレベルの方が登山を楽しむことができるように、強断と偏見で、様々な標高の山を並べたものである。

1.三宝山(2483.3m 一等三角点本点)点の記には三方山と記録。厳密には頂上付近は埼玉県内にはならないので、埼玉県内最高峰は大なる疑問。三角点は境界杭ではないことを地元役所で再確認していただきたい大問題である。昔、甲武信小屋の元親父さんが埼玉県最高峰は甲武信ヶ岳と話していたが、測量等の根拠が何であることだろう。関東平野から高々と大きな姿に見える。

2.甲武信ヶ岳(2475m 標高点)日本百名山。甲斐・武蔵・信濃の国境からの甲武信ヶ岳とは、だれが最初に採用したのか。明治19年の旧大滝村の記録に、すでに甲武信ヶ岳とある。『甲斐国誌』には三方山。しかし、遙か西方にある国師ヶ岳という名称の広域的な領域だった可能性が捨てきれない。「こし」を聞く人によって「こぶし」と聞いても不思議ではなく、古い絵図にある拳岳はどう考えても隣の三宝山と思われ、ここの山名論は解決には至らないだろう。関東平野からも見えるが、その姿は名前ほどではない。何故日本百名山なのかも疑問が残る。

3.木賊山(2468.6m 三等三角点)呼称は「とくさやま」。余計な事を書くの間違える恐れがあるが、ここの三角点の点名は「破風」。東にあるピークの三角点の点名は「破不山」。この辺一帯の山の総称として「はふ」「はふ一」と呼称されていたのだろう。点名は明治時代の測量官が地元の方から採取して採用しているので貴重な記録である。

4.雁坂嶺(2289.2m 三等三角点)雁坂峠の上にあるから雁坂嶺ではなく、そもそも古い山越えは鞍部を目指すのではなくピークを目指して山を越えた筈である。浦山溪谷の奥にある仙元峠もピークが峠。旧大滝村の古文書集の中には、雁坂越えのルートでの遭難者の記録がいくつも出てくる。いつの時代も山越えは大変であったが、現在はその下をあっという間に通過してしまい、そこに歴史は残るのだろうか。

5.飛竜山(2069.1m 三等三角点)別名「大洞山」。現在の地形図には三角点が山頂からズレているため山頂の標高も標高点2077mとして記載してある。飛竜権現のところから山頂に至るが、第二次世界大戦の時の航空母艦「飛竜」へ祭りこんだ神輿はここからだという話を聞いたことがあるが、本当だろうか。東京、浦和方面からは見える山である。

6.白石山(2036.0m 二等三角点)日本二百名山 別名・和名倉山。昭和30年代に大規模な山火が発生し自然が失われたが、現在100年掛けて緑を復活させようと埼玉大VW部OBらが中心となって大規模な植樹等が行われている。現在でも行き難い山の一つである山体が大きいので要注意。

7.雲取山(2017.1m 一等三角点補点)日本百名山 現在一般には奥秩父で知名度、人気度でトップ。晴れた日の山頂からの富士山は素晴らしい。山頂にある原三角測点は、全国に三つ残っている内の一つで一番大きく立派。そこに記載されている明治十五年十二月は、あの秩父事件以前である。北側にある雲取山荘は埼玉支部会員の新井信太郎さんの経営。

8.笠取山(1953m 標高点)昭和初期「奥秩父」の大書を発行した原全教は、この1953mに「笠取山」と命名す

る根拠を発見するのに苦むと記録され、山梨県側山麓三ノ瀬で呼称されている「袴腰山」を本文、地図の中で採用。笠取山の名は笠取小屋西方にある三角点1802.1mのピークに採用している。地形図上の山名は地元市町村役場から提出される地名調書を元に採用するため、地元役場で位置を誤って報告したのか、地形図上に採用する時の位置を陸地測量部が間違えたのかのどちらかである。調べてみないと判らないが、昭和初期から訂正されないまま一般化してしまった山名だ。

9.三国山(1834m 標高点)上野、武蔵、信濃の三国境の山。車で入山以外は入山しにくい山だけに山頂を踏んだという登山者はあまり聞かない。甲武信ヶ岳が南の三国境に対して、ここは北の三国境。両山とも何故か三角点が無く、何故こちらの山名が上武信ヶ岳(じょぶしがだけ)にならなかったのだろうか。それだけに甲武信ヶ岳の山名には大いに疑問が残るのである。

10.両神山(1723.0m 二等三角点)日本百名山。埼玉支部会員の人気度ナンバーワン。関東平野からも簡単に確認できる鋸状の山。やはり一度は登りたい山の一つ。昭和初期、原全教が延べヶ月にもわたる調査で『奥秩父』に紹介、人気絶えない山の一つである。

11.天目山(1718.3m 二等三角点)別名・西谷山。現在の地形図には都県境の二箇所にて天目山の山名が記録されている。もう一つは三ツツツの位置である。簡単に説明すると埼玉県側では西谷の位置を天目山、東京都側は三ツツツの位置を天目山と呼称し、それは間違っていない。旧荒川村では迷わず西谷山を天目山と呼称、昔は小学校の遠足でも登り、古くは稜線に萱を採取する人が住んでいたという。

12.大平山(1603.0m 三等三角点)この山を登ったという人も少ない。天目山林道から登ったとか、都県境から下ってきて登ったという話は聞く。山麓の細久保集落が栗山集落から忠実に登ったとなれば藪山グレードは最高級の本物。埼玉にも本格的な藪山が残っているが、熊もいるのでご注意ください。

13.霧凧ヶ峰(1523.1m 三等三角点)秩父宮殿下がここを登山したとき、サルオガセ(霧凧)があることから「霧凧ヶ峰」と命名したのが始まり。秩父宮のレリーフがあり、奥秩父開山式が毎年行われている。燕岩という別名もある。

14.蕎麦粒山(1472.9m 三等三角点)名前の如く、蕎麦粒の形状をした山。この形状を知れば、遠く離れても簡単に山座同定が可能。しかし本来の山名は火打石山らしく、そこから火打石の石があるからとなっていたが、山岳修験の研究者が「蕎麦粒?、火打石の石があった?、違うよ!」と話していたことが忘れられない。

15.秩父槍ヶ岳(1430m 等高線)昔は登山関係にまったく知られていなかった山。『奥秩父・大菩薩連嶺 アルパインガイド』(羽賀正太郎著・山と渓谷社発行)の「十文字峠越え」の地図上で、標高点1341m南西の1430mの等高線があるピークを槍ヶ岳と記載されたのが最初。後に『分県登山ガイド 埼玉県の山』(山と渓谷社・1993年初版)に紹介されてから俄然注目されたが、同書には山名を誤ったまま紹介されている山もあるので要注意。

16.熊倉山(1426.5m 三等三角点)昭和42年の埼玉国体の時にルートが整備され人気が高まった山である。秩父鉄道の白久駅からバスにも乗らずに、直接登り

出せる山として人気があった。しかし、途中の沢沿いのルートのところで断層が走っているのか、山は常に荒れて転落事故が絶えずルートが根根沿いに変更になった。この山中は意外にも道迷う人は女性登山者が多く、また山麓の二見沢によく熊が出没するので注意したい。

17.矢岳(1357.9m 三等三角点)この山は読図力と登山経験が要求され、道なりに歩く登山者知らない人の入山は避けていただきたい。まず古いガイドブック、古い登山用地図のルートは誤っていると考えた方がよいだろう。そのため現地において読図力と感が要求され、GPSを持っているからと安心して遭難する山である。山が荒れているのに踏み跡が多く、標識がほぼ皆無状態のため、道に迷って歩きスリップ等での転落により遭難、入山者が極端に少ないため発見されるまでに時間を要し、捜索隊が入山すると他の遭難遺体を発見すると言う、一時期は埼玉県内最悪の山であった。我こそはと言う方は、武州中川駅から大所道経由で尾根上を登るか、矢岳西面の安谷川沿い林道の途中と終点からの二つのルートがある。しかし十分にご注意を。

18.武甲山(1295.4m 二等三角点)日本二百名山 大正時代から始まった採掘により、現在衰えな姿となったが、その知名度は江戸時代すでに中山道の絵図の中で大宮宿付近から「ふじ山と武甲山が見える」と紹介され、極めつけは伊能忠敬が作成した地図の中で中山道桶川宿回りから武甲山への方向線が引かれている事実は知られていない。採掘さえなければ、知名度、人気度ともに埼玉県内トップの山だった可能性が高く、日本百名山に相応しい山ではないだろうか。それだけに残念な名山でもある。

19.有間山(1213.5m 三等三角点)旧名栗村の名栗湖から広河原逆川線という秩父の浦山口にまで延びる林道を車で走り、最高地点の峠から簡単に行くことができる。山麓から歩くとなると時間との戦い。山頂稜線は防火帯になっており、ここの三角点は削られて酷い姿である。関東平野からもよく見える山である。

20.二子山(1165.8m 三等三角点)同名の山は多い。ここで言う二子山は、小鹿野町の奥にある二子山であり、埼玉のドロミテと表現するのが最適。近年事故が多いのは残念。以前はこの山麓を西武鉄道が鉄道を引くという噂が絶えず、志賀坂峠には西武がロτζまで建てたが廃業。もし鉄道が引かれていたら坂本辺りに「二子山下」と言う駅ができ、二子山へ行く人で賑わったことだろう。

21.御岳山(1080.4m 三等三角点)木曾の御嶽山王滝口を開いた普賢上人は、この山麓麓合の出身。登山口近くにある普賢神社に祀られている。奥秩父入口の日帰りができる山として意外と人気があり、これからは注目される山だろう。

22.武川岳(1052m 標高点)古い地形図には三角点の記号があるが、昭和62年頃三角点標石が亡失。現在の地形図から三角点記号も消えた。武川岳という山名も秩父の登山者によって命名された名称。そもそも「ホーキ平」という名称で、三角点の点名は「籌平」。山体の割には武甲山と伊豆ヶ岳に挟まれた不遇な山である。

23.城峰山(1037.7m 一等三角点補点)頂上直下に城峰神社があり、現在は山頂にマイクロエーブの鉄塔とそこに展望台が付随し、眺望は素晴らしくハゲ岳が見える。鉄塔の下に一等三角点があり、三角点の説明板もある。石間峠まで車で行くに簡単に登れる。

24.棒ノ折山(969m 標高点)こも聞き取り方によって変化した不遇な山ではないだろうか。そもそも「ぼうのおね」と言われていたのが、聞き取り方によって「ぼうのおれ」、「ぼうのれい」と聞え、それを漢字で「棒之折」、「棒の嶺」と表現、後に各種表記が現れ、どれが正解か混乱の域に。このような例は意外と多く「山王峠」が登山関係で「三の峠」と記録されている例がある。昔から沢登りで人気があった白谷沢の上部を、現在林道「大名栗線」が横切り、オートバイと乗用車が走っている。

25.丸山(960.3m 三等三角点)山頂からの武甲山、奥秩父、両神山、秩父盆地が見える位置的関係が素晴らしく、奥武蔵屈指の展望台と古くから称されてきた。その中でも北アの鹿島槍から白馬岳北峰への稜線も見える記録されていた内容が大きな誤りであることが確認され、本来本元の槍ヶ岳を中心とした南部の山々が見えていたことが判明した。他にハケ岳、上越国境の山々から日光、高原山、八溝方面の山々まで見え、極めつけは横手山のスキー場と相模湾に浮かぶ船が見える。

26.堂平山(875.8m 一等三角点)埼玉の臍とも言うべき県内唯一の一等三角点。旧国立天文台のドームが残っている。ほぼ山頂まで車で登れる山。関東平野と北関東の山々の展望、そして百万ドルの夜景も素晴らしく、遠く房総半島の山々まで見える。遙か彼方に見える筑波山との標高差が10センチであることも知られていない。南西尾根続きの標高点864m 南側から遠く北ア・槍ヶ岳を肉眼で確認できる。**27.伊豆ヶ岳**(850.9m 三等三角点)伊豆が見えたから伊豆ヶ岳は古い冗談。東側山麓の畑に伊豆権現が祭られており、付近は江戸時代末期伊豆葎山の代官、江川太郎左衛門の領地。明治四年廃藩置県により一時期葎山県だった事実を知れば伊豆ヶ岳という山名に疑問はないだろう。奥武蔵での人気度トップの山である。

28.笠山(837m 標高点)堂平山の北側にあり、地元で別名「おっぱい山」として著名。小川町、鳩山町辺りから見ると納得できる山形。関東平野から見ると見事な三角形の山で、どこからでも確認しやすい山である。**29.四阿屋山**(771.6m 三等三角点)花で有名になった山。山頂付近は岩場が狭く、転落死した方もいるので要注意。季節には山頂に上がるのに順番待ちの事もある。下山すると山麓に国民宿舎と温泉が待っている。

30.大霧山(766.6m 三等三角点)晴ればハケ岳が見える。秩父礼所巡りの一番四萬部寺へのルートは、北側の粥仁田峠もしくは南側の旧定峰峠を越えた。山名が大霧と言っても、山頂の住所は秩父郡東秩父村大字皆谷字大切。霧ではなく切だ。となると他の山と比較し、東西が薄い山形からの山名か。山名の漢字だけで判断すると危険な例である。

31.登谷山(668m 標高点)奥秩父・北関東の展望が素晴らしく、一度は行ってみたい山。快晴の日、北ア・鹿島槍ヶ岳北峰の頭が見えることがある。中腹にある登谷牧場のアイスクリームは人気がある。東上線七峰縦走の時はご注意ください。寄居の駅まで実に長い。

32.破風山(626.5m 三等三角点)昭和40年代までは登山者も少なく展望もよかった。眼下に見える太田の地は奈良制の跡。西側の札立峠は秩父礼所めぐり最後の峠。北側には西国、坂東、秩父の日本百霊場最後の結願寺として著名な水潜寺があり、古くから多くの人の眼にとまった山ではないだろうか。

33.養山(586.9m 二等三角点)一般的には桜で著名な山。車で山頂まで行ける。山頂の二等三角点は亡失していたが、やっと近年になり新二等三角点が設置されたようだ。秩父盆地の独立峰的な山で、武甲山が雄ならば、養山は雌的存在の山。山麓に秩父鉄道の駅が三つもあるのだから、もっと歩かれてもよい山ではないだろうか。

34.越上山(566.5m 三等三角点)「おがみやま」と呼称。意外と世間には知られていないが、山頂付近は双子峰の山。江戸時代から展望が素晴らしいと紹介され続けてきた山である。北西側にある越上沢は1-2mぐらいの滝が続き、沢登り初体験者に最適な沢であったが、現在は数化してしまい遊ばれなくなったようである。古くは雨乞いをやった沢として近隣で知られていた。

35.陣見山(531.0m 二等三角点)稜線付近を林道が通っているが、地形図上で山頂から南西尾根沿いに延びる踏み跡は末端の登山口の位置がまったく違う。また南東沢沿いに延びる踏み跡は、山麓は存在するが途中から踏み跡がなくなり歩けないので要注意。山頂には埼玉テレビの中継所があり、何故か落ち着けない山頂である。

36.宝登山(497.1m 三等三角点)近年は山頂付近の蝶梅が有名になったが、長壽の山として県内の小学校の遠足で行く山として知名度はかなり高い。山頂からの秩父盆地と奥秩父の山々の展望が素晴らしく、県内で唯一のロープウェイがある山である。

37.大築山(466m 標高点)越生町のあじさい山の奥にある山。麦原から標識が存在するが、怪しいところもあるので標高点の山を目指し読図力で登るのがよいだろう。山頂は城跡が素晴らしい。ハイカーとは滅多に会わない静かな山である。ときがわ町側からも登れる。

38.雷電山(418.2m 三等三角点)ときがわ町の雷電山。関東地方には数多くの雷電神社、雷電山などがあり、雷、雹、霜等の自然災害に対する信仰が篤かった事が伺える。現在は何でもコンピュータの時代になり、意外にも雷対策が重要な課題となってきた。そんな時に注目されたのが雷電神社の雷除けのお札。この雷電山も、そんな事と関係している山なのだろうか。

39.物見山(375.4m 一等三角点補点)日和田山奥の物見山。ハイキングコースを歩き、物見山の看板がある頂上には三角点が無く、少し北東側に歩くと尾根上に一等三角点標石がある。三角点必ずしも山頂にあるとは限らない例で、もう一つ注目していただきたいのは三角点標石の向きである。一等三角点にも関わらず、その向きは北西である。一等三角点本山の堂平山に向いているような気がしてならない。

40.鐘撞堂山(329.9m 三等三角点)寄居町の裏山的存在。深田谷津から登るのが一般的であるが、周囲から数多くのルートが山頂に伸びている。しかし、読図力を要求されるので、やたらに下らない方がよいだろう。山頂には展望台がある。

41.日和田山(305.0m 四等三角点)奥武蔵の入口にあり、ハイカー、クライマー、歴史・植物グループ、幼稚園の遠足までと、とにかく各種分野の人達で賑わい山頂が満杯になることもある。それだけに踏み跡も多く、道に迷わないように。山頂南側の鳥居の傍に木曾の御嶽山を開いた普寛上人の石碑があることは知られていない。

42.金勝山(263.9m 二等三角点) 埼玉県立小川川げんきプラザが傍にあり、時には子供達で賑わっている山。

地質関係者にはペグマタイト(?)で有名らしく、JAC山の自然学研究会でも現地調査をしたようである。東武東上線とJR八高線に挟まれ、国道254号線も脇なのに寄る人は少ない山である。

43.天覧山(197m 標高点)古くは愛宕山、江戸時代に羅漢山と呼ばれるようになり、明治16年山麓で行われた近衛兵部隊の演習を明治天皇がこの山から統監したことにより天覧山と呼ばれるようになり現在に至っている。地元には名誉ある山名かもしれないが、反面本来の山名を忘れられ不遇な山と言ってもよいだろう。山麓に岩登りの練習場がある。

44.物見山(135.0m 二等三角点)東松山市と鳩山町の境界。別名・岩殿山。北側に坂東札所の岩殿観音がある。この山頂付近を北緯36度線丁度が東西に伸びているので覚えておくと何かの時に便利である。山頂は整備されており、直下を女子大生を乗せたスクールバスが唸りをたてて通過して行く。

45.二ノ宮山(131.7m 二等三角点)滑川町 登山関係で、この山頂に立ったという人を聞いたことがない。関越自動車道からも見える山で、意識しないと行く機会がない山であり、山頂に何故か立派な展望台がある。何が見えるのだろうか。

46.荒幡富士(119.1m 二等三角点) 地形図にも記載あり。西武鉄道狭山線下山口から徒歩15分。明治32年(1899)、丘陵に築かれた富士塚。南に西武球場ドーム、遠くには新宿の高層ビルも望め、所沢市民誇りの山でもある。

47.大久保山(112m 標高点)埼玉県内でも数少ない駅前にある山。それも長野・上越新幹線の本庄早稲田駅前。自動車で行っても関越自動車道・本庄児玉ICの傍。早稲田大学本庄校舎の文化祭と合わせて行くのがよいだろう。

48.観音山(77.4m 一等三角点補点)熊谷市 地元で三ヶ尻観音山と言って知らない人はいない。山頂に三角点二つもあり、97.5mの三角点は山頂にある鉄塔の上。正式には偏心点という。77.4mは山頂の地面上にあり、金属標の一等三角点。長野・上越新幹線に乗って熊谷駅を過ぎると左側傍に見え、山頂の鉄塔が三角点槽になっているのが確認できるが、うっかりしていると新幹線は何事も無かったようにカタコン、カタコンと快調な音を響かせながら通過していくので注意を。

49.丸墓山(35.7m 三等三角点)行田市 山は低いが、ある分野の研究者が一度は見学しておきたいと全国から来る埼玉でも珍しい山。築山されてから千数百年の歴史的バックグラウンドがあるのに、登山関係者からの注目度はゼロに近い。降雪時、雪上訓練に適した斜面あり、山麓には呑み屋、温泉ともに揃っている。

50.浅間山(約10m)さいたま市大宮区 石橋支部長推薦の読図力を要求されない遭難にくい山。登山口が判れば山頂まで息つく暇もないくらいのルート。問題は登山口を探すのに迷う可能性が高い。旧大宮市民誇りの迷山としてインターネットでも紹介されている。

(*)50山については、埼玉支部のホームページでも紹介しております。今後は登られた方からのレポートにもとづき、コースの情報、四季の情報などをご案内して行く予定です。